

行政視察等報告書

令和3年10月20日

米子市議会議長様

会派名 蒼生会
代表者氏名 門脇 一 男
提出者氏名 奥岩 浩 基



下記のとおり報告します。

記

項 目	<input type="checkbox"/> 現地調査 <input checked="" type="checkbox"/> 行政視察 <input type="checkbox"/> 要請・陳情活動 <input type="checkbox"/> 研修会への参加 <input type="checkbox"/> 会議への参加
参加者	稲田清、奥岩浩基、門脇一男、田村謙介、三嶋秀文、森谷司
期 日	令和3年10月5日（火）
[概要]（年月日・場所・内容）	10月5日 議会第2会議室 オンライン行政視察 茨城県取手市 「取手市議会におけるオンライン会議システムの導入について」
[所感]	別紙のとおり
経 費	総額 3,417円

（注）氏名を自署する場合は、押印を省略することができる。

取手市オンライン行政視察報告

1. 視察日時 令和3年10月5日 午前10時より午前12時まで
2. 開催場所 議会第2会議室 (Zoom)
3. 視察先 取手市議会事務局
4. 視察項目 「取手市議会におけるオンライン会議システムの導入について」
5. 取手市について 人口 107,017人

面積 69.94平方キロメートル

6. 取手市オンライン会議導入の経緯

- ・令和2年 5月 取手市議会災害対応規定、感染症対応規定の改正
- ・令和2年 5月 取手市議会基本条例改正

(議会体制の整備、情報通信技術の活用)

- ・令和2年 7月 取手市議会タブレット端末運用規定の制定
- ・令和2年 9月 取手市議会会議規則改正、取手市議会委員会条例の改正

(災害発生、感染症のまん延等の際のオンライン会議システムを活用

した会議を認める規則・条例の改正)

- ・令和2年11月 取手市議会会議規則改正

(タブレット端末を用いた電子決済の採決を認める規則改正)

- ・令和3年 6月 取手市議会会議規則改正

(委員会でのタブレット端末を用いた採決を認める規則改正)

- ・令和3年 6月 オンライン会議の申し合わせ (全員協議会で決定)

7. 当日の主な視察研修集内容

- ・オンライン会議導入に至った経緯について。
- ・オンライン会議導入にあたっての課題について。
- ・オンライン会議導入への必要な条例改正について。
- ・オンライン会議導入後にみえた課題と解決策について。

取手市議会では、オンライン会議導入に限らず、会議・現地視察・広報広聴・災害対応・研修・ペーパーレスの6つの観点から課題があり、コロナ以前より議会改革について議論があった。コロナ禍により緊急事態宣言の発令等の影響もあり、継続して会議を実施するためにオンライン会議導入の議論が進んだ。コロナをきっかけに有事の際の会議を継続して開催するため、オンライン会議導入に必要な条例・規則改正を行われた。オンライン会議導入に検証を行い、さらなる会議の発展に努められている。

8. 所感

茨城県取手市議は茨城県の南端に位置し、東京・成田・つくばの中央に位置し、交通の要の都市となっている。この度、コロナ禍という事もありオンラインでの視察の受け入れをご了承いただき、「オンライン会議について」視察を行った。

取手市議会では当時の議長のリーダーシップにより平成29年、女性による議会改革の際にICTの活用について議論を行ってきた。女性は男性に比べ、出産・育児等ライフステージの変化により議場への出席が困難になる場合があり、どのように会議へ出席するか、また会議に出席する方法がないのか、といった議論があり、リモート出席の有用性についても検証された。当時オンライン会議の導入実現には至らなかったが、昨年新型コロナウイルス感染症の影響により発令された緊急事態宣言によってオンライン会議を導入された。オンライン会議導入にあたり、緊急時での新しい取り組みになるため議員からの反対意見等がなかったのか質問したが、予想に反して大きな抵抗はなかったとの事であった。そのかわり、個々の議員に対して丁寧に説明をされたり、導入後も事務局や議員間でのサポートを行われていた。オンライン会議導入にあたり機器の不具合や通信障害等については心配の声があったとの事だが、議場での会議開催中においても、全ての議員が全ての会議の内容を把握理解し聞いているかという点、現状そうではない場合もあるということで、議会としての会議の質を向上させる為にもあえてオンライン会議の導入も有効だと伺った。実際にアプリケーション

オンラインソフト「Zoom」を使用した会議では、議員個々の顔が投影される為、お互いの表情がわかり会議内容に集中出来る場合もあると伺った。政府もデジタル庁を創設し、DX化が進み推進されるなか、米子市議会においても緊急時に会議を開催するためにもオンライン会議は非常に有効であると感じた。一方で、デジタル弱者と言われる議員に対しての不安もあるが、丁寧な説明とサポート体制により、機器を十分に活用することが出来た事も伺うことができた。取手市議会においてはオンライン会議の活用により議案説明の際に映像や現地からの中継など、議案に対し、個々の議員の理解度が深まり会議の質が向上したケースも伺った。

米子市においても、第4次行財政改革が進む中、取手市議会の様にオンライン会議の活用について早急に検討・議論する必要があると感じた。また、今般のコロナ禍によって課題がみえてきた、有事の際の会議の開催方法や議会のあり方についても検証し、必要であれば取手市議会のように条例や規則の改正も視野に入れて議論する必要があると感じた。

コロナ禍により、今までと違った視察の手法をとったが、オンラインでも出来る事が想像以上に多くあることがわかった。また、一方でオンラインではまだ難しいことがある事もや出来ない事を明確にし、オンラインと通常の顔を合わせた会議と双方の良い箇所を活かし、今後さらなる米子市議会の発展を目指し、市民貢献へ繋がる議会となる必要があると強く感じた。今回の視察により、会派内では世代や個々の議員のデジタル技術への理解度を越えてオンライン会議についての理解が深まり、非常に有意義な視察であった。